
別にダメではないが...って触るなあああ！！

House-now/はうすなう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

別にダメではないが…って触るなあああ！！

【Nコード】

N6711V

【作者名】

House - now / はうすなう

【あらすじ】

とある町のとある学校：女國童子学園高等部に入学した高校一年生の鳳星 翔^{ほうちうせい かける}。彼はある自分の体質に困っていた。それは…女性に触れないこと、性思考は正しく、ちゃんと女性と付き合いたいのだが、体が否定してしまうという体質。そんな彼は女國童子学園に入学し全寮制なので寮に住むことになる。その寮で彼を待っていたのは彼にとって地獄だった…

学園おにゃのこ恐怖症ラブコメここに開幕！

こんな体質に困る少年（前書き）

最初に自己紹介ーーーどうもこんにちは”はうすなう”です。イラストも一応描いてます。まあ下手ですが（「」＊）と挿し絵もこの小説には頑張っ入れていけたらなあと思います。えゝと何をすればいいかはまだわからないのですが、毎日なんとか更新できればいいなあと思ってます。皆さんの応援を頂ければいっぱい更新します（まあ後は自分の気分次第ですけど）。（「」）ニヤリ）これが初作品なので皆さんどうか見捨てないでください。お願いします（＾　＾）なにか間違っている表現や間違っている点や漢字などがあつたら連絡お願いします（＾　＾）

もしかしたらエロゲーっぽくなっちゃうかも知れないな（「」）。（「」）まあなつたらなつたで仕方ないか（笑）！

こんな体質に困る少年

そうこれはある朝の出来事だった…

？「ここか今度から俺が通う学校は…」

1人の少年がとある学校の門前に立ち尽くしていた。学校の門のよこには”女國童子学園高等部”と書かれたプレートみたいなものがある。

その少年の近くに1人の少女が近づいてくる。

？「君は新入生くんかなあ？」

？「はっ…ハイ！わッワタクシいえ…ゴホンッ僕は今度の春から入学する鳳星？翔（ほうしょう）かけるですっ！」

？「ふゝん翔くんかあゝ、可愛いわね♪」

翔「あっありがとございます！」

？「よろしくね新入生の翔くん♪」

その少女は手を差し出してきた。

翔「あっ握手はちよつと…」

？「そんなこと言わずに」

？は翔の手を取り握手をした。

翔はいきなり身体が震えだし…

翔「どわああああ！！、ふっおお！！」

いきなり手を振りほどき距離を置いたところで…

翔「おっ俺に…触るなあああ！！！」

つと大声を出した。

そうこれとはある少年のとある壮大な学園生活の始まりに過ぎなかった…

入学式当日でのどうしよう事件（前書き）

おはようございます。”はうすなう”です。起きたのが、今さつきです。なんだかエアコンをガンガンに使って寝てたら、なんと布団から出れなくなってしまいました（^| ^;）。まあ「腹が冷えて動けなくなってしまった」というところです。

後、投稿する基準？というか目標？まあ更新というやつです（「

＊」ど。なんとか毎日1、2話位は更新したいと思っています。

まあたまに忘れてたりしてたらメッセージとかをお願いします（；

>|<:;）

P.S.: お気に入り登録してくれた人ありがとーございます。良かったらユーザーネームを教えてください。これを基に頑張っていきたいと思います。

入学式当日でのどうしよう事件

入学式当日…

翔「うわぁ…なんだか学校行きたくねえ」

そうベッドに倒れ混みながらねているこんなダークな雰囲気を出している少年こそ、この物語の主人公である。

翔「まあ、今日は早く終わるらしいし、まあいいか」

翔は女國童子学園の制服に着くずした感じに着替えて、ボツサボサの髪を整えず、朝食をとらずに玄関へと向かい靴を履いて玄関の扉を開けた。

そしてそこには…

？「おはよう、翔くん」

翔「お、今日はいつもより早いな灯（あかり）」

魔鷺月ノ 灯（まがつきの あかり）翔の幼馴染みである。幼稚園から高校まで一緒という完全エロゲー設定のヒロインである。容姿は黒髪に、綺麗な瞳で、スタイルは完璧で頭も良く、中学の頃は他県にも名が上がるほどの優等生である。ちなみに家は金持ちで、魔鷺月財閥の一人娘である。

翔「あれっ？何でお前そんなに大荷物なんだ？」

灯「あれっ翔くん知らなかったの、あそこの高校って…ああああ！！忘れ物しちゃった！！先に行つて」

何かを言いかけたところで、灯は忘れ物を目にも見えない速さで走りだし、取りに行った。

翔「なんかあの学校ってあつたけ？」

と考えつつ、翔は学校へと向かった。

女國童子学園高等部、南門前

翔「はあ…なんじゃこりゃ…」

翔は南門前に入れるわけもない。なぜなら…

翔「ここ本当に共学なのか？」

南門前には女子、学校の敷地内には女子、女子、女子、女子だらけ。

翔は南門前の受付の人に聞いてみた

翔「あの…すいません、ここは女國童子学園高等部ですよ？」

受付の人（女子）「そうですよ」

何故か、にこやかに答えてくれる。

翔「それで共学ですよ？」

受付の人（女子）「はい！もちろんですよ！」

なぜにこやかに答えるかはわからない。

翔「あの…体育館ってどこですか？」

受付の人（女子）「このまま真っ直ぐ行って、南門玄関があるので、そこを左へ曲がればすぐです」

翔「ありがとうございます」

だが翔は悩む、どうやってたらこの女子に当たらず、いや…ぶつからずにいけるかを考えていた。

翔『どうする、どうするか…？ラ○フカードなんか持ってないし、デ○ルバットゴ○ストなんかできるわけもない、縮○なんか人間技じゃないし、どうする…どうすんだよおお！…！』

入学式当日でのどうしよう事件（後書き）

少年誌ファンの方マジですいません。アイシールド21のファンやる〇うに剣心のファンの方には謝つときます。どうもすみませんですm(____)m

ちなみにラ〇フカードってのはオダ〇リジョーさん（だっけなあ）のCMでやってたやつです（´・`・´）。（ラ〇フカードってたしか18歳以上じゃないと買えないとか）

全寮制ってマジっすか！？（前書き）

おはようございます（「　＊（ヾ」はうすなう”です（、・ω、・
（今さつき起きて、なんとなくネタというKA？まあ続きが思いついた
ので、書きたいなと思います。ちなみに灯のラフ画は、後もう
ちょっとで描き終えるので楽しみにしていってください（「　・
ちなみに翔のラフ画はまだです（。・・）

全寮制ってマジっすか！？

体育館

ということでは体育館に着いた翔。

だが…女子しかない。

翔「さて…どうするか？」

ため息をして考えこむ翔…

そこに…

？「よう翔！どうした元気がねえじゃんか！」

聞き慣れた声が後ろから響く。

翔「なんだよお前もこの高校だったんかよ…柳瀬」

柳瀬「当たり前だよ！こんな女に囲まれた高校にくるのが俺の夢だったのSA！！」

翔「朝からハイテンションだなあてめえはよ」

柳瀬「（やなせ」「下の名前まで覚えてない」）、中学の頃の悪友でケンカやノゾキでよく警察に捕まっていた。あだ名は変態という名の社会人。

柳瀬「なあ翔、入学式終わったらテニス部…断じて断る！！」だつたら体操…「なあ頼みがある…俺の高校生活スタート時に自分で頭を撃ち抜いて死んでくれないか？」

あまりに残酷的なことを言われ、女子をまじまじと觀賞し始めた柳瀬。

そんな柳瀬をスルーして翔は自分のクラス番号が書かれた看板が立つところへと向かった。

そこに着いた翔は縦一列に並べられた椅子の前から大体真ん中辺りに座り始まるのを待っていた。

やがて、時間がたち、そろそろと新入生が座り出した。

翔は周りから視線を合わせずに寝たフリをしていた。

翔『かつ…勘弁してくれ、なんで俺を見るんだよ!』

そう前後の席は女子左右の席は女子斜め方向、全方位女子、左右の女子は翔を珍しそうに見ている。何を見ているのかと周りの女子たちも翔に視線を釘付け。

だが…翔は寝たフリが寝るへと変わってしまいつつあった。

翔『ヤバイ…眠い』

だが…次の一言で目が覚める魔法の言葉が校長代理で生徒会長から放たれた。

生徒会長「今日は神宮寺 成実（しんぐうじ なみ）校長の代理で私が学校の入学式を進めさせてもらう。この学校は皆も知っていると思っているの通り全寮制…「はあああああっ…!!!」」

翔はあまりの衝撃的な言葉に大声を張り上げてしまった。

翔「ぜつ、全寮制ってマジっすか…!?!」

全寮制ってマジっすか!?(後書き)

次回も楽しみに(* *)

男にとってはパラダイス、翔にとっては地獄へようこそ

保険室

翔「……………俺って多分1回は死んだよな？」

翔は保険室のベッドで寝込んでいた。なぜ保険室にいるか？それでは過去へ戻って見よう。

体育館

翔「ぜつ、全寮制ってマジっすか!？」

生徒会長「ああその通りだが…何か問題でも？」

翔「問題アリアリだ…ツムググググ！」

後ろに何故か座っていた灯は翔の口を手でふさいだ。

灯「ごめんなさい、私の双子の弟が入学式を進めるの止めて、続けてください」

生徒会長「わかった」

翔「ツムググググ！ムググ！—（俺に触るなあああ！）」

灯「お願いだから、静かにして…」

翔「ツムグ！グググムググ！グググ！—（ヤバい！死ぬ！離せ…）」

とまあ生徒会長の話も終わり、生徒全員が教室へと向かい始めた。

だが、翔はずっと席に座ったまま。

灯「翔ったら…終わったよ翔！」

ユサユサ、ドタツ！

灯「ねえ…どうしたの？翔？」

返事がない…ただのしかばねのようだ。

灯「キヤー————！！翔が死んでる！！誰か——！！」

保険室

……つとまあこんな感じだったのである。

翔「まったく入学初日から大変な目にあうとはな、よっこいしょっと」
翔はベッドから起き上がった時…

シャー！

翔「うわビックリした！」

いきなりカーテンが開き灯が翔に飛びついてきた。

灯「翔！よかった！本当によかった！もう死んじやったかと思って…グスツ…」

翔「のわあああ！！触るなあああ！！！！」

灯「いやだもん離さない絶対に！！！！」

灯はぎゅっと強く翔抱き締めた。

翔「…うが、誰かたす……」

灯の豊満なバストに顔をつっ込んだ状態なので翔は息が出来ない。

灯「翔！教室に行こ」

返事がない…ただのしかばねのようだ。

灯「いやあああ！！！！」

本日、二回目の殺人事件が起きてしまった。

放課後

翔は保険室のベッドから起き上がった。

翔「まったく最悪、なんなんだよ今日は教室にもたどり着けなかったじゃねえかよ、ってなんだこりゃ？」

ベッドの机のところに手紙が置いてあった。

翔「誰からだ？」

差出人は生徒会長からだった。

翔「うわああああ！！マジかよ絶対入学式の件だわ！」

翔は恐る恐る手紙を開けた。

翔「ありや違うわ」

宝生 翔くんへ…

この手紙を手にとった女子寮の101号室へ。

神宮寺 加娜（しんぐうじ かな）より

翔「いやいや、女子寮っておかしいだろ！」

翔はそんなツツコミをかましつつ考えた。

翔「む、向かうしかないのか？ いやいやでもうわあああ！！」

つとそんなことをやっていたら…

？「っん…うるさいわね…」

右のカーテンが空き全裸の女性が立っていた。

翔「っな！」

？「一緒に寝る？」

翔「おっお化けだあああ！！！！」

翔は全速力で逃げ出した。人間を超越いやフェラーリの如く。

？「なんだありや？」

女國童子学園女子寮前

翔「結局ここ来ちまったか、いや来るしかなかったっく選択肢がねえし！」

翔は渋々101号室に向かった。

101号室前

翔「なんだこりや？ 何でここだけVIP？」

翔はドアをノックした。

？「誰だお前？」

銀髪の身長の小さい口リっ娘がドアから顔を出した。

翔「いや俺は神宮寺生徒会長の手紙にここに来てって書かれたから来たんだけど」

？「知らんお前みたいな下郎は入れたくはない」

翔「いやだから…」

？「帰れ、殺すぞ下郎が」

翔「なんだとこのチビが！小学校に帰れバカ」

？「貴様…今言った言葉を永遠に覚えておけ…」

ロリっ娘の姿が突然消え、背中に張りついていた。

翔「嘘だろ…」

？「お前みたいな穢れた血など吸いたくないが殺すためならまあいいだろう、死ね…」

灯「そこまで！！」

灯がロリっ娘に銀色に輝く剣を突きつけた。

灯「翔を傷つけたら、五体バラバラにしちゃうよ」

？「フンッ…」

翔「灯？なんで…お前そんなもん持ってたんだよ」

加娜「来たようだな」

部屋の奥から歩いてくる。

翔「なんで最初からって、ああああ！入学式前に会ったことがある！」

加娜「ふふっ入学式でも会ったな少年、まあ入れ」

加娜は手招きをする。

翔は部屋へと入っていく。

加娜「今日からこの部屋に住んでもらう、無論拒否権はなしだ」

加娜、灯、他に3人さっきのロリっ娘もいる。

翔「はあああああ！！！！」

加娜「後…」

加娜は翔の下顎をつかみ…

翔「俺にさわ…んっ…んっ…」

加娜は翔にいきなり深いキスをした。

加娜「んっ…んっ…んっ…」

灯「なっなに…え？」

加娜はキスを終えて、翔にこう言う。

加娜「少年…私だけのものになれ」

男にとってはパラダイス、翔にとっては地獄へようこそ（後書き）

ヤバい！俺こっから展開どうしようかな。全然考えてないし、投稿遅くなってごめんなさいm（——）m楽しみにしてくれた方どうかたのしんでってください（——）

次回も楽しみに（ヾ・ω・）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6711v/>

別にダメではないが...って触るなあああ！！

2011年9月14日03時31分発行